

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175000413		
法人名	社会福祉法人北見有愛会		
事業所名	グループホームゆう&あいひまわり(2Fユニット)		
所在地	北見市花園町38番地6		
自己評価作成日	平成28年2月10日	評価結果市町村受理日	平成28年4月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	1/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=0175000413-00
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	平成28年3月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームひまわりでは、利用者の方々に最期までその人らしく過ごして頂く事ができるよう努めております。事業所理念である「感謝」の気持ちを忘れず、人と人として喜怒哀楽を共にし、本人が安心して生活を送る事はもちろん、ご家族にも精神的負担を少しでも軽減できるかを考え、その結果入所後の認知症の緩和にも繋げる事ができております。
職員については知識や技術の向上を図る事だけでなく、社会に携わる一員としての自覚を持ち、謙虚さと他人を尊重する気持ちを豊かにしていけるよう努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内で作成した理念を施設内に掲示し、職員同士で確認し合う事により、自分たちの言動や行動を戒め、共有実践するよう取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新年会やお花見、清掃活動といった町内会行事に参加したり、消防訓練の際には実際に消火器を使った訓練にも町内会の方々に参加して頂いている。また、中学生の職場体験実習の受け入れも行って、交流を図っている。		
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会行事や運営推進会議等の中で、福祉に関する質問や相談を受け、地域包括支援センターの協力を得ながら、わかりやすくお話しする機会を設け、理解を深めて頂いている。		
4		○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会独自で設けて頂いている運営推進委員に引き続き参加して頂き、利用者の状況や行事活動の内容、予定等を報告し、質問や相談、助言を頂いている。災害時の協力体制も整えており、サービスの向上に繋がるよう取り組んでいる。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業運営について判断が困難な場合は報告や相談を随時行っている。また、市担当者からの入居相談等があれば、出来る限りの協力を行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し、定期的な研修を行っている。全職員が拘束や虐待について理解を深め、判断が難しい場合についても自己判断せず、共通認識でケアを行うよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置するほか、定期的な内部研修や外部研修にも参加し、報告会を行うことによって意識向上に努めている。また、会議の中で紫斑や打撲痕等が見過ごされないよう原因やケア上の注意点を話し合い、記録に残し虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修にも参加し、制度についての理解を深めるよう心掛けていると共に、研修の報告を全職員に行う機会をつくり、助言や相談に対応できるよう努めている。また、内部研修では、制度上の問題点や課題等の事例も取り上げ知識向上に繋げている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退去の際には、契約書や重要事項説明書に沿って説明を行い、ご理解を頂いた上で同意を頂いている。制度改正等がある場合には事前に同様の説明を行い、十分な説明を行う事で理解、納得して頂けるよう心掛けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が施設へ来られた際に状況報告を行ったり、意見を伺ったりし、必要時には電話連絡を行うなどしている。その上で、事業運営や利用者本人へのサービスへ反映した内容を運営推進会議の場で報告を行うなどしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人の管理職会議や施設内の会議を行っている。また、日頃から何でも話し合える環境を心掛け、意見や提案を聞きながら業務改善に繋がるよう取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理職会議は毎月行われ、各事業所での状況や問題点等について相談が行いやすい環境にある。また、給与や条件の見直しも法人として実施しているほか、資格取得や健康診断の実施をし、働きやすい環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は人間性を育てる事で、社会人として専門職としての質の向上を図る事を目指し、資格取得やより専門的知識を深める研修参加への体制を整えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との定期的な会議や意見交換の場を設ける事により、より良いサービスの提供に繋がるよう心掛けている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	関係機関等に入居前の情報提供をお願いすると共に、ご本人、ご家族へ何度かお会いする時間を頂き、聞き取りを行う事で、入居後に不安を感じる事のないよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前より施設見学や電話連絡等を通してご家族の要望を聞き、関係づくりを行うほか、何か気づいた事や不安を感じた時は連絡を頂けるよう声をかけ、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前よりご本人やご本人の希望を確認する機会を設けている。また、入居後もできるだけ社会との関わりが希薄にならないようサービスの内容を検討し、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常会話の中で、生活の知恵や人生の先輩としての考え方などを教えられたり、共に暮らしていくものとしての関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所運営やサービスについて随時ご家族へ相談や協力をお願いしている。また、ご家族が参加される行事においても、ご本人とゆっくりと過ごして頂けるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今は別の施設に入所されている配偶者との面会や、寝たきりであっても自宅への帰省のお手伝いを行ったり、冠婚葬祭で外出される際のお手伝い、短期外泊で自宅へ戻られる際など、多方面で支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	身体レベルの低下や認知症の重度の方は利用者同士のコミュニケーションが図りにくいが、職員が話の内容を伝えたり、手伝いをするなどして、お互いに馴染みの雰囲気の中で過ごされている。体調不良等で居室で過ごす時間が多くなる方に、他の利用者の方が心配する声も聞かれるなど関わり合いながら生活をされている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、「近くを通ったから、寄ってみた」等来所されるご家族や、親戚の方の施設入居相談のため電話連絡を頂くなどし、出来るだけの支援をさせて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人との日常会話の中や、ご家族との関わりの中で今までどういう暮らしをされて来たかと、これからどう過ごしていきたいかのヒントを頂き、ご本人の自己決定を基本とし、尊重した生活が営む事ができるよう心掛けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用開始前よりご本人の好きなものや趣味などを伺い、入居後の日常生活に無理なく取り入れる事や、プランに取り入れる事で馴染みの生活が送れるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者個々の心身の状況や生活歴から、現在の生活サイクルを想定し、それをもとにケアを行っている。また、その日その日のご本人の様子を観察し、見極める事でご本人の負担の少ない生活をして頂くよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の状態変化に合わせ、その都度ご本人やご家族へプランへの意向を確認している。また、細かく様子記した個人記録や職員の意見をもとに会議で検討し、プランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご本人の様子や発言は勿論の事、職員の意見を申し送り確認し、できる事はすぐに対応するよう心掛けている。また、その結果をアセスメントやモニタリングし、プランに反映させるなどしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別ケアとご家族への協力を視点におき、入院時であっても、ご本人の様子や洗濯物の入れ替え、消耗品を届けるなどしている。また状況に応じて必要書類の代理手続きや福祉サービスを使用する上での助言等も行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	生活保護や福祉制度を活用し、住み慣れた地域での生活ができるよう支援している。医療機関についてもそれぞれの馴染みの場所を引き続き利用して頂くなど、不安なく生活していけるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関受診時は職員が同行し主治医への状況報告等を行っているほか、急変時や終末期への対応等も事前に相談を行い関係構築に努めている。また別な診療科を受診される場合には、ご本人やご家族の希望を聞き受診を行っている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制により、看護職員による健康状態の確認と把握を毎週金曜日に行っている。また、外部訪問看護契約も個別に可能であり、終末期の対応もできる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には職員が同行し、医療機関への情報提供を行っている。入院中についても定期的な面会をし、生活用品を届け、本人の状況を確認するなどして、関係づくりを行っている。また、ご家族へ電話連絡し、様子をお伝えするなどしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に看取り指針をもとに終末期への説明を行っている。またご本人の状態悪化前の段階で、ご家族とも何度か話し合いを繰り返し、医療関係者とも連携を図る中で、出来るだけご本人とご家族の希望に添った支援が行えるよう取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、いつでも確認できるよう置いている。また内部研修の実施や、申し送りの時に話し合いを行い、発生時は迅速かつ的確な対応ができるよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルの改訂を実施したほか、訓練や研修も定期的に行っている。また、消火訓練の際は町内会の方も参加され、避難場所の確認や見守り等の体制も整備されている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自己決定や個人を尊重するよう日頃から努めていると共に、常に客観的な視点で自分を見つめケアを行うよう指導し、配慮を行う意識を保つよう心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的にさりげなく意思決定の場面を作るよう心掛けたり、意思をうまく伝えられない方についても表情や様子を観察し、職員間で話し合う事で出来るだけ汲み取る事ができるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活サイクルや日々の心身の状況に合わせ、ケアを行えるよう入浴日時の調整や食事を居室へ運膳するなどしているほか、外出希望の調整やゆっくりと話を伺う時間を作るなどして希望に添うよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の整容や更衣時に選択が行える質問をするなど声掛けに配慮したり、外出時は準備の手伝いをしながら、身だしなみを整え外出できるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前は配膳やおしぼりの準備をして頂いたり、食後は食器やお盆拭き、テーブル拭きをして頂くなど職員と共にやっている。また誕生日や季節行事には利用者の方の希望を取り入れた献立を立てるなどしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下状態に配慮し食前に皆で歌を唄ったり、食事中の摂取状況や嚥下状態を観察し、食事摂取量、飲水量と共に記録をしている。食事量低下がみられる場合には主治医と相談するほか、好みのものをご家族と相談の上、用意し食べて頂くなどの支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声掛けし、口腔ケアや義歯の洗浄を行っている。また、個別に歯科往診を受けているほか、外部研修へ積極的に参加を行い、会議で報告する事により知識や技術の向上に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の状態や様子を記録し把握するよう努めている。夜間のみポータブルトイレを使用する方もおり、個別に状況を確認し、検討しながら支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲水量や排便状況を個別に記録し把握している。乳製品の提供や腹部マッサージを行ったり、主治医へ状況を伝え下剤の調整を行うなどして、対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の希望に合わせて入浴日や時間を調整している。利用者の心身の状況に合わせ職員二人で介助を行うなどして、不安なく入浴を楽しんで頂けるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の希望時や傾眠気味に過ごされる時は居室で休むよう職員から声掛けを行ったり、就寝時間も昼夜逆転にならない程度での就寝を促している。夜間についてもトイレ誘導やラウンドの時間を調整するなどして、安眠できるよう心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の内服薬はファイルし職員がいつでも再確認できる状態にしてある。また、薬が変更になる場合は主治医へ状況報告を行うほか、ご家族へ報告や相談をその都度行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や日常生活の中からや、ご家族へより詳しいお話を伺うなどしてご本人の好む事やできる事、やりたい事の支援をしている。また、健康に支障のない程度に嗜好品を楽しむ支援も行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望や心身状況を確認し、散歩や買物、外食、地域行事の参加などの支援をご家族へ相談のもと行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほぼ全員の方の金銭を施設でお預かりしているが、ご本人もお小遣い程度自分で管理されている方もおり、外出の際に自分で支払いを行うなど、個別に対応をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望された場合はいつでも電話連絡が行う事ができる。また手紙のやり取りもいつでも可能である。郵便局も近いため、見守りのもとご本人自ら手紙を出しに行く事も可能である。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者個々の生活導線に配慮しながら、利用者やご家族が不快に感じない生活感のある雰囲気心を掛けています。また季節に応じた装飾品などは、利用者の方と共に飾り付けを行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のソファで過ごされたり、居室でテレビを視聴されたり、他の利用者の居室を訪れお話をされたり思い思いの場所で過ごして頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居以前に使用されていた馴染みの生活用品や家具を持ち込んで頂き、ご家族の写真や装飾品を思い思いに飾るなどして安心した落ち着いた雰囲気生活ができるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	見やすい位置に時計やカレンダーを配置し、利用者の状況に合わせ声掛けや見守りを行う事により、混乱のないよう安心した生活を送って頂いている。		